


一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成27年 11月17日

山北町議会議長 府川 輝夫 殿

受付番号	第3号	質問議員	3番	井上 正文 
件名	町産木材の利用拡大を図る具体策を			
要 旨				
<p>木材の利活用の具体的方法として、手始めに、工事現場フェンス（チップ入り）の木質化やサインボードの木質化をパネル形式で仕上げ利用、更にそのパネルは、災害時には、避難所のついたてや、トイレの囲い、そして燃料として最後まで使いきるなど、横浜の1団体から興味深い話がある。</p> <p>また、その研究をしている横浜国立大学の中尾先生は、高校生、大学生、一般社会人を対象とした 調査研究室を開設して、具体的に水源地である山北町の木材を使いたい意向である。</p> <p>山北町でもそれと連動して、新しい一步をふみだすべきである。それが、やがて山北町ふるさと交流センターや旧共和小（仮称）なえぎの学校をイメージした営業につながるものと確信する。</p> <p>そこで、実現できる町産木材の利用拡大を図る具体策を質問します。</p> <p>(1) 山北町第5次総合計画では「公共施設木材利用計画を策定するなど、今後町産木材の利用拡大を図る必要がある」という計画であるが、現在の進捗状況を伺う。</p> <p>(2) 町産木材の利用の拡大については、平成21年10月に施行された公共建築物等木材利用促進法に基づき、水源地域の上下流交流を実施している横浜市、川崎市を販売エリアと定め、公共事業につかってもらおう方向性を示すべきではないか。</p> <p>(3) 森林を環境問題としてのみ注視するのではなく、若者の雇用を生み出す経済林を新しい視点で復活させる具体的事業展開が、いまの山北町に問われている。</p>				

原木から木材製品を製造し、神奈川県山北町産材 ブランド製品として公共、民間の建築材とし山北町と共に利用を推進し、旧来の1次林業から6次化林業を目指す事で、年間を通じて町内にて子育て世帯でも生活が出来る具体的な雇用創出型林業を創出すべき考えがあるのか伺う。そのためには、山北町内で、プレカット、乾燥までできる木の基地が必要になるが、候補地として簡保の跡地などはいかがでしょうか伺う。

以上